どこにでも行けるけど、
ここにいたい。本庄

広報ほんじょう

HONJO

まちを知るきっかけを作る情報紙

2025

4

別冊版：七高祭

本庄市高校生プロジェクト 2025　七高祭～ Colorful city with you ～

合同文化祭 2025.1.26〈七高祭〉

初のカミケンシルクドームでの開催となった合同文化祭〈七高祭〉。ステージ発表やワークショップなど、盛りだくさんの１日を高校生たちは笑顔で駆け抜けました。

当日は約 3,000 人もの方に来場いただき、
盛況のうちに幕を閉じた合同文化祭。

しかし「**七高祭**」**はこの日１日だけではありません。**
合同文化祭に至るまで、高校生は、関わる大人たちとともに
真剣に悩み・考え、地域に自ら足を運び、
その過程自体が「**まちの賑(にぎ)わい**」となっていました。

そして、**合同文化祭が終わった後も、その想いは失われずに**
まちの中で新たな賑わいを生んでいます。

◀これまでの七高祭、これからの七高祭を見てみよう！

詳しくは、コチラ

高校生プロジェクト 七高祭 ガイヨウ

そもそも高校生プロジェクトってなに？

市内には公立・私立を合わせて５つの高校と１つの特別支援学校（高等部）があり、人口規模に対して高校の数が多いことが市の特徴でもあり強みでもあります。市では、市内で学ぶ高校生を大切な地域資源と考え、平成 20 年から高校生プロジェクトを実施しています。

これまでの七高祭を振り返る

▲**令和３年度**：市の魅力発信冊紙の制作・写真展の開催

▶▼**令和４年度**：WEB 上での合同文化祭、PR 動画制作、広報紙制作

▲**令和５年度**：課題解決型プログラム・合同文化祭・産学官連携プログラムの実施

このまちに関わる人 すべてをつなぐ「場」

コロナ禍を経て令和３年度にプロジェクトが再始動してからは、「高校生」はもちろん「市民」、「学校」、「行政」が関わりながら、七高祭でしかできない地域連携活動を行ってきました。今では、それぞれがより広く、より深く関わりあうことで、まちの賑(にぎ)わいを生む交流の「場」となっています。

令和６年度の 七高祭

令和６年度は、地域の特性や魅力を知り、４つのテーマに対してワークショップやフィールドワークを行い、特性をいかす方法や魅力の発信方法を考える「**地域連携プログラム**」、高校生が企画・運営し６校が一堂に介して行う「**合同文化祭**」の２つを軸に、地元企業と連携して商品開発等に取り組む「**地域コラボ企画**」や、「**マチノブカツ**」など、学校と地域の垣根を越えた取組が行われました。

今年度実施したプロジェクト

合同文化祭 P03

高校生が主体的に企画・運営する６校での合同文化祭を開催しました。

日時：１月 26 日㈰　午前 10 時～午後４時
会場：カミケンシルクドーム

地域連携プログラム P04-05

地域の特性・魅力を知りワークショップやフィールドワークを経た成果を合同文化祭で発表しました。

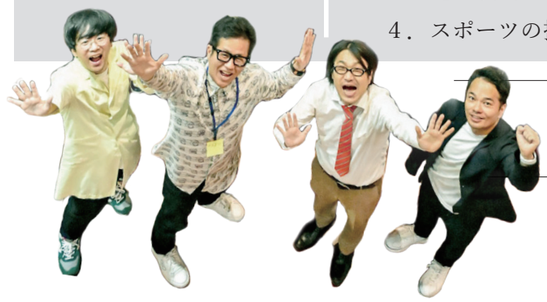
1. 福祉の推進
2. 児玉地域の魅力発信
3. 児玉駅周辺の賑わい創出
4. スポーツの推進

地域コラボ企画 P06

「Bakerys Kitchen ohana」、「本庄農業女子」「NINOKURA」の皆さんと商品開発等に取り組みました。

マチノブカツ P07

昨年度高校生が立ち上げた「sustaina 部」「ゲーム部」が合同文化祭にブースを設置、取組を発表しました。



令和６年度の七高祭は〈吉本興業株式会社〉
YOSHIMOTO の皆さんがサポート！

吉本興業所属の芸人の皆さんが約１年間、それぞれのプロジェクトに参加し高校生と伴走！笑いに包まれた和やかな雰囲気の中で、プロジェクトを導いてくれました。

地域の特性や魅力などを市民や行政とともに考え、探究・発信する「地域連携プログラム」。高校生らしいアイデアで、地域のために奔走しました。

地域連携プログラム

01 福祉の推進

「福祉」をより身近に考えてもらう

福祉の推進には、地域の理解や協力が必要です。そのためには、少しでも「福祉」を身近に捉えてもらえるようにすることが大切と考えた高校生たち。自分たちには何ができるのかを考え、どのように伝えていくのがよいか、真剣に考えました。

劇で「福祉」の大切さをPR！

今回のプロジェクトでは、「おじいちゃん・おばあちゃんの毎日を支える福祉」をテーマに「高齢者福祉」に注目。

ワークショップやフィールドワークをとおしてどのような困りごとがあるのかを聞き、調べ、その解決方法を探りました。

行きついたのは寸劇。合同文化祭当日に「リプレイス～助け合い～」と題し劇を発表し、来場者向けに「助け合い」の大切さをわかりやすく伝えました。

どうしても固く捉えがちなテーマである「福祉」。しかし、高校生なりに親しみやすく伝えることで、観劇した方はより身近に「福祉」について考えることができました。

関わってくれた方

福田　浩二さん

本庄市社会福祉協議会

七高祭のような場は、まちの人が関わることで、新しい魅力を発見できるなど、多くの可能性を秘めていると感じました。

そこに福祉の視点も取り入れることで、誰もが心地よく過ごせる、温かい地域になっていくのではないかと思います。

02 児玉地域の魅力発信

私たちが捉えた児玉の素敵な魅力

学校生活の中だけでは、里山をはじめとした地域の魅力に気付けない高校生も多い。そうした中で高校生たちは、フィールドワークをとおしてそこで暮らす方と関わりながら、その魅力を実感！高校生ならではのアイデアで、捉えた魅力をどのように発信していくのが良いか、考えました。

関わってくれた方

片桐　正富さん

二松菴 元店主

わたしたちの住んでいる地域は過疎化が進み、若い世代が少なくなってきています。

こうした中で高校生が地域に関わってくれるのはありがたいですね。

ぜひ、今後も高校生の豊かな発想をいかして、地域の魅力発信の担い手になってほしいです。

児玉の魅力を集めたアートとパンフレットを作成！

魅力を発信するために、まずは地域を知りたい！ということで実施したフィールドワークをとおして、地元の方たちと関わりながら魅力を実感した高校生たち。

その際に、地元の方の笑顔や美しい風景を目の当たりにした高校生たちは、それ自体を地域の魅力と捉え、撮影した写

真を使ったアートの展示と、パンフレットを作成し、合同文化祭で発表することとしました。

当日は、フィールドワークを通じてつながった地元の方もワークショップを行うなど、ブースは訪れた方で大盛況。高校生の捉えた児玉の魅力は、訪れた方に確実に届いていました。

03 児玉駅周辺の賑わい創出

無人駅に再び賑わいを

無人駅となった児玉駅周辺を「高校生のエネルギーで活気を取り戻したい！」とJR東日本と協力し、駅周辺で賑わい創出イベントを実施した昨年度。地元の方たちや参加した高校生からの要望もあり、今年度も引き続き多くの方が楽しめるイベント開催に向け、皆でアイデアを出し合いました。

児玉ターミナル2024を開催！

今年もJR東日本の皆さんと協力しながら、高校生たちは駅周辺を活用した賑わい創出イベント「児玉ターミナル2024」の開催に向け、ワークショップやフィールドワークに取り組みました。

当日（10/20）は児玉駅周辺の魅力を知ってもらうために「謎解きスタンプラリー」

等を企画。同日開催の「児玉商工まつり」と合わせて、児玉駅周辺を回遊しながら楽しめるイベントとして、多くの方が参加しました。また、普段はシャッターが閉じたままとなっている旧改札窓口を開け、景品交換所として活用。訪れた地元の方たちは、シャッターが開いていた往時の懐かしさを感じていました。

関わってくれた方

飯塚　孝志さん

児玉商工会 事務局長

児玉駅周辺を高校生が実際に歩き、関わってくれたことで「高校生と交流できてよかった」という声も聞こえてきます。

何かに挑戦するとき、「高校生である」というのは、有効な武器だと思います。この武器でもって、地域の活力となってほしいですね。

04 スポーツの推進

皆で楽しめるニュー・スポーツを創る

本庄市が掲げる「市民一人1スポーツ」の理念のもと、高校生ならではの発想で「みんなが楽しく運動し、健康に過ごせるようなニュー・スポーツ」を新たに創ることに。高校生たちは、幅広い年齢層に楽しんでもらえるようフィールドワーク等を経ながら競技作りに試行錯誤しました。

関わってくれた方

田中　邦治さん

市グラウンドゴルフ協会 前会長

高校生にもグラウンドゴルフを体験してもらい、覚えがよく、教えがいがありました。

ニュー・スポーツの参考になったのであれば、うれしいです。

今回の体験をきっかけに、若い人にもグラウンドゴルフに興味を持ってもらいたいですね。

高校生考案のニュー・スポーツ「ビパルフ」＆「BB（バンプボール）」

フィールドワークやワークショップを経て、まず考案されたのがビリヤードとパターゴルフをかけ合わせた「ビパルフ」。コーナーから外にボールを押し出すことで得点となり最終得点で競います。

また、「BB（バンプボール）」は、参加者が転がり落ちてくるボールをめがけてボールを投げ、ゴールを阻止するゲーム。

この2つのスポーツはスポレクフェスタ、合同文化祭の場で披露され、間口が広いながらも奥深い競技性に、参加者は熱中して楽しんでいました。

「考え方次第で誰でもスポーツを楽しめる」。この取組をとおして、高校生は誰もが健康に過ごしていくために不可欠なスポーツへの間口を広げてくれました。

それぞれ取り組んだテーマは違えど、高校生たちはまちの賑わい創出について真剣に考え、そして実際にまちづくりの一助を担ってくれました。

プログラムをとおして見えた高校生の熱意は、まちの活気や賑わいにつながっています。

マチノブカツ

「七高祭のその後」

令和５年度の七高祭で、高校生それぞれが興味のあるテーマで集まり作った「マチノブカツ」。
そこで生まれた「気付き」から始まった活動が地域に根付き、新たな動きを生んでいます。

「気付き」から、新たな「動き」へ

CCC 本庄の活動の様子

七高祭がなければ、本庄の人とは関わらず駅と学校の往復で終わっていたかもしれません。

３年間関わった七高祭は、私にとってさまざまな大人と関わり刺激を得ることのできる場であり、いろいろな発想を受け入れてくれる場でした。

秋山　友花さん
早稲田大学本庄高等学院

七高祭から、高校生自身の活動へ

令和５年度に立ち上がったマチノブカツのひとつ「sustaina 部」。一人ひとりがごみ問題を自分ごととして考え、それぞれのやり方でアクションを起こして欲しい、という思いのもと活動しています。

テーマについて考える中で、東京都内で行われているごみ拾い活動とコーヒータイムを組み合わせて、まちの人びとのつながりを生み出す「Cleanup Coffee Club」の存在を知り、秋山さんをはじめとしたメンバーが参加。その活動に感銘を受けた高校生たちで「Cleanup Coffee Club 本庄（CCC 本庄）」を立ち上げ、今日まで活動を続けています。

昨年の合同文化祭ではブース発表も行いました

都内で行われた CCC に参加する高校生たち

これまで気付かなかったごみの多さに気付いたり、多様な価値観を持つ人と話せたりするなど、CCC 本庄の活動はまちを知り、まちの人とつながり、そしてさまざまな人が関わるきっかけを作っています。

私たちでもできるかも、という高校生たちの「気付き」、その気付きが今、まちの中で新たな「動き」へとつながっています。

「動き」が新たな「つながり」へ

今年初めて七高祭に参加しましたが、他校生、大人たち含めていろいろな人と接点をもてたのがうれしかったです。

地元は違いますが、いつも過ごしている本庄に七高祭が終わった後も CCC をとおして関わることができてよかったです。

大塚　隼平さん
早稲田大学本庄高等学院

今年初めて七高祭に参加した大塚さんは、１年間の活動をとおして、さまざまな人と関わる中で、さらに深く本庄に関わりたいと思ったそう。

そんな時に CCC 本庄の存在を知り、その活動に自ら参加。CCC の活動について聞くと、「心の居場所のような感じがしました」と、笑顔で語ってくれました。

秋山さんたち sustaina 部がまちの中で始めた活動が、次世代の高校生たちと、まちの間に新たな「つながり」を生んでいます。

CCC 本庄に参加しゴミ拾いをする大塚さん

寄り添う先生から見た「七高祭」

１年間七高祭を生徒とともに参加させていただきました。

お互いに学年を明かさずにワークショップに参加していたことで、**上下関係なくフラットに意見を交せていた**姿がとても印象的でした。

また**学生・民間・公的機関の距離がとても近く**、お互いがより広く、より深く関わり意見を交しながらプロジェクトを進められていたので、「**考えたことをしっかりと形にできていた**」のが素晴らしかったと思います。

横瀬　隆さん
本庄高等学校 教諭

地域コラボ企画

地元企業等と連携して商品開発等に取り組む「地域コラボ企画」。高校生ならではの「視点」と地域の方々の「知識」が混ざりあい、オリジナリティ溢れる商品が生まれました。

Bakerys Kitchen ohana ×七高祭

高校生独自の視点で商品企画を行う

自分たちでは気づかない、独自の着眼点で取り組んでくれて、楽しかったです。スタッフにとってもいい刺激になったので、機会があれば毎年一緒に取り組んでいきたいです。

久保田 浩司さん
Bakerys Kitchen ohana オーナー

七高祭オリジナルパン作り！

地域との関わりを大切に、地元生産者の皆さんとのコラボレーション商品も多数販売してきた ohana さん。

今回は七高祭とのコラボということで、高校生と一緒にオリジナルパンの作製に協力していただきました。

さまざまなパンのアイデアが出るなか

当日に向け検討会議！

合同文化祭当日、売り場は大盛況！

で、最終的には本庄産ブロッコリーを使用した「ブロッコリーハヤシカレーパン」を合同文化祭で販売することに！

当日用意していた約 350 個のパンは、すぐに売り切れ。盛況のうちに販売終了となりましたが、その後、なんと ohana の店舗でもカレーパンを販売していただけることに！

高校生の想いとアイデアがつまったカレーパンは、味わった皆さんの身も心も「おいしさ」で満たしてくれました。

本庄農業女子 × NINOKURA ×七高祭

新鮮な本庄野菜の魅力を余すことなく伝える

本庄野菜のうまみがぎゅっとつまった「ななっこ」

自ら考えて動く。そんな高校生の姿に、参加した自分自身がとても刺激を受けました。

七高祭のような場があることで民間・行政だけではできないことが実現できるのは、まちにとってもすばらしいことだと思います。

小林　由美さん
NINOKURA 蔵主

日頃、高校生世代と交流することはめったにないので、「農業に興味を持ちました」と言ってもらえてうれしかったです。

元気よく先陣を切って取り組む生徒、物静かだけどフォローが万全な生徒など、それぞれができることを一所懸命に取り組んでいたのが印象深かったです。

牧野　涼子さん
こだまの丘農園まきの（本庄農業女子）

本庄野菜で「ベジフラワー」作り！

今年の七高祭では、本庄野菜の魅力を発信している「本庄農業女子」さんともコラボ！メンバーの牧野さんと高校生で、本庄野菜を使った美しいベジフラワー作りワークショップを合同文化祭の会場で行いました。

本庄野菜が美しいブーケに！ベジフラワー作りワークショップ

本庄野菜を使った「ななっこ」を販売！

また、NINOKURA の小林さんにもご協力いただき、本庄野菜をふんだんに使ったつみっこならぬ七高祭特製の「ななっこ」を高校生とともに考案。

新鮮な本庄野菜のうまみが濃縮された「ななっこ」はまさに絶品。合同文化祭では、来場した多くの方が舌鼓を打ちました。

このまちに関わる人、すべてをつなぐ「場」

「いろいろな発想を受け入れてくれる場だった」「七高祭のような場があることで、できないことが実現できる」「さまざまな人と関わることで刺激をもらえた」。

七高祭に関わった方をとおして見えてきたのは、このまちに関わるすべての人をつなぐことで、賑(にぎ)わいを生む「場」としての七高祭の姿。

本庄には、七高祭がある。これからも人と、まちをつないでいく。